

1 結果の要約

(1) 出生数は減少

出生数は 4,473 人で、前年の 4,594 人から 121 人減少し、出生率（人口千対）は 6.8 で、前年の 6.9 を下回った（全国第 18 位）。

合計特殊出生率は 1.69 で、前年の 1.68 を上回り、全国第 2 位（昨年 は 3 位）であった。第 1 位は沖縄県（1.86）、第 2 位は島根県（1.69）、第 3 位は宮崎県（1.68）、第 4 位は長崎県（1.64）、第 5 位は鹿児島県（1.63）である。

(2) 死亡数は減少

死亡数は 9,585 人で、前年の 9,710 人から 125 人減少した。死亡率（人口千対）は 14.6 で、前年の 14.6 と同じであった（全国第 2 位）。

死因別にみると、死因順位の第 1 位は悪性新生物、第 2 位は心疾患、第 3 位は老衰となっている。全死亡に占める割合はそれぞれ 25.2%、14.6%、11.7%である。

(3) 自然増減数は減少

出生数と死亡数の差である自然増減数は△5,112 人で、前年の△5,116 人から減少数が 4 人減少し、自然増減率（人口千対）は△7.8 で、前年の△7.7 より減少率が 0.1 増加した（全国第 42 位）。本県では平成 4 年以降、死亡数が出生数を上回る自然減が続いている。

(4) 死産数は減少

死産数は 91 胎で前年の 98 胎より 7 胎減少し、死産率（出産（出生＋死産）千対）は 19.9 で、前年の 20.9 を下回った。死産率のうち、自然死産率は 13.1（前年は 11.5）、人工死産率は 6.8（前年は 9.4）となっている。

(5) 婚姻件数は減少

婚姻件数は、2,398 組で、前年の 2,625 組から 227 組減少し、婚姻率（人口千対）は 3.6 で、前年の 3.9 を下回った（全国第 37 位）。

平均初婚年齢は夫 30.3 歳、妻 28.9 歳で、夫は前年と同じ、妻は前年より 0.1 歳低下した（全国平均は夫 31.0 歳、妻 29.4 歳で、夫は前年よ

り 0.2 歳低下、妻は前年より 0.2 歳低下した)。

(6) 離婚件数は減少

離婚件数は 877 組で、前年の 945 組から 68 組減少し、離婚率（人口千対）は 1.33 で前年の 1.42 を下回った（全国第 42 位）。

表 1 人口動態総覧

	実数			率		平均発生間隔	
	令和2年	令和元年	対前年増減	令和2年	令和元年	令和2年	令和元年
出生	4,473	4,594	△ 121	6.8	6.9	1時間 57分 30秒	1時間 54分 24秒
死亡	9,585	9,710	△ 125	14.6	14.6	54分 50秒	54分 7秒
乳児死亡	12	10	2	2.7	2.2	30日 10時間	36日 12時間
新生児死亡	8	4	4	1.8	0.9	45日 15時間	91日 6時間
自然増減	△5,112	△5,116	4	△ 7.8	△ 7.7
死産	91	98	△ 7	19.9	20.9	4日 15分 49秒	3日 17時間 23分 15秒
自然死産	60	54	6	13.1	11.5	6日 2時間	6日 18時間 13分 20秒
人工死産	31	44	△ 13	6.8	9.4	11日 18時間 34分 50秒	8日 7時間 5分 27秒
周産期死亡	24	17	7	5.3	3.7	15日 5時間	21日 11時間 17分 38秒
妊娠 22 週以後の死産	18	14	4	4.0	3.0	20日 6時間 40分	26日 1時間 42分 51秒
早期新生児死亡	6	3	3	1.3	0.7	60日 20時間	121日 16時間
婚姻	2,398	2,625	△ 227	3.6	3.9	3時間 39分 10秒	3時間 20分 13秒
離婚	877	945	△ 68	1.33	1.42	9時間 59分 18秒	9時間 16分 11秒

	令和 2 年	令和元年
合計特殊出生率*	1.69	1.68

*分母に用いた人口

令和 2 年の分母に用いた人口は、総務省統計局の資料に基づき、厚生労働省政策統括官付参事官付人口動態・保健社会統計室で推計した令和 2 年 10 月 1 日現在の 5 歳階級別日本人女性人口。

注：出生・死亡・自然増減・婚姻・離婚率は人口千対。乳児・新生児・早期新生児死亡率は出生千対。死産率は出産（出生＋死産）千対。周産期死亡率及び妊娠満 22 週以後の死産率は出産（出生＋妊娠満 22 週以後の死産）千対である。